

令和元年度第1回  
高崎・安中地域保健医療対策協議会 病院等機能部会  
次 第

日 時 令和元年10月10日(木)  
午後7時00分から午後9時15分  
場 所 高崎市総合保健センター  
3階 第4会議室

1 開 会

2 あいさつ

3 議 事

- (1) 第8次群馬県保健医療計画の変更について 【資料1～1-4】
- (2) 平成30年度病床機能報告の結果等について 【資料2-1～2-5】
- (3) 2025年に向けた対応方針の更新について 【資料3】
- (4) 地域医療構想の実現に向けた今後の取組 【資料4～資料5】
- (5) その他

4 そ の 他

5 閉 会

令和元年度 第1回高崎・安中地域保健医療対策協議会  
病院等機能部会 出席者名簿

令和元年10月10日(木) 19:00~

高崎市総合保健センター 3階 第4会議室

氏名	役職名	備考
有賀長規	高崎市医師会長	
高橋好一	安中市医師会長	
水口滋之	群馬郡医師会長	
小屋淳	藤岡多野医師会副会長	
佐藤仁	高崎市医師会病院代表	欠席
田村仁	高崎市医師会有床診療所代表	
中島伸介	高崎市医師会回復期病床代表	欠席
合志裕一	群馬郡医師会有床診療所代表	
石原弘	(独)国立病院機構高崎総合医療センター院長	欠席
唐澤正光	公立碓氷病院長	
岡野昭	群馬県病院協会代表	欠席
長坂資夫	群馬県病院協会代表	
野尻健	群馬県有床診療所協議会代表	欠席
後藤裕一郎	高崎市保健所長	
新井修	高崎市保健医療部長	
水澤祝彦	安中市保健福祉部長	

# 令和元年度第1回高崎・安中地域保健医療対策協議会 病院等機能部会 議事概要

○日 時 令和元年10月10日（木）  
午後7時から午後9時

○場 所 高崎市総合保健センター3階 第4会議室

## 1 開 会

## 2 あいさつ

## 3 議 事

### (1) 第8次群馬県保健医療計画の変更について

○資料1～1-4により、事務局から説明。

○不足している外来医療機能（資料1-2）及び共同利用方針（資料1-3、1-4）について原案どおり了承。

○意見、質疑等の概要は次のとおり。

（委員）旧倉渕村地域（過疎地域）は医師少数スポットに指定されないようだが、何か支援があるのか。

（事務局）旧倉渕村地域については現在独自に取り組んでいるため、今回の計画期間3年間は引き続き取組を続けていただきたいと考えており、まずは高崎安中地域全体の医師数の確保を目指したい。計画期間後、さらに対応が必要な状態であれば、医師少数スポットの指定等対応を検討したい。

（委員）医師少数スポットになるとどのような支援があるのか。

（事務局）国の財政的な支援を活用して医師を配置するために重点的支援を行う。具体的には医師の派遣等が考えられるが、そのためには医師を受け入れられる環境も必要であるため、現にへき地診療所がある地域や無医地区を有する地域を優先して指定したいと考えている。

（委員）共同利用方針は機器の更新の場合も作成が必要なのか。

（事務局）新規購入時だけでなく、更新の場合も共同利用方針を作成いただき、各地域の調整会議等で示していただく。

### (2) 平成30年度病床機能報告の結果等について

○資料2-1～2-5により、事務局から説明。

○意見、質疑等なし。

### (3) 2025年に向けた対応方針の更新について

- 資料3により、事務局から説明。
- 意見、質疑等なし。

### (4) 地域医療構想の実現に向けた今後の取組

- 資料4及び資料5により、事務局から説明。
- 意見、質疑等の概要は次のとおり。

(委員) 国は病床の削減を進めようとしていると思うが、当地域では現状の病床数(3,611床)と2025年の病床数(3,675床)があまり変わらないため、今後国からの働きかけが予想されるか。

(事務局) 高崎安中地域に限る話ではなく、国は全国的に2025年必要病床数に向けた病床の削減について議論が進んでいない状況に問題意識があり、今回再検証対象病院の公表に至った。ただし、国も病床を強制的に削減するという意図ではなく、各地域で自主的に議論を進めてほしいという意図のようである。

(委員) 現状の医師偏在の原因は、医学生が群馬大学卒業後、前橋市等の市街地に住んだことが原因の一つだと思う。やはり居住地から遠隔地の病院へは行きたがらない。その結果、群馬大学が前橋市中心に医師の配置を行い医師不足を招いたと考える。

(委員) 今回再検証の対象となったことを重く受け止めている。当院では平成27年からあり方検討会を発足し、改革に向けた議論をしている。当院は細野地区及び入山地区でのへき地医療、安中市における救急医療を担っているほか、無菌治療室を有しており富岡地域からの血液疾患患者の紹介も多い。安中市内唯一の公立病院として地域での医療提供体制を維持できるようダウンサイジング等を検討したい。今後ご支援をお願いしたい。

(委員) 再検証対象病院は来年9月までに結論を出す必要があるということか。

(事務局) 再編統合等をしない場合は来年3月まで、再編統合等をする場合は内容を含めて来年9月までに国に報告する必要がある。

### (5) その他

- 意見、質疑等の概要は次のとおり。

(委員兼地域医療構想アドバイザー) 県内で再検証の対象となった4病院について国も県も病院が無くなっていいとは思っていない。病院の統廃合を考えるのではなく、病院が地域でどのように活躍してもらうかを考えていくべきである。

2025年の病床数は何とかなりそうな数字に感じられるが、もっと先ではより厳しい数字が予想されている。民間病院は生き残るためにその数字に向け

て変化していくが、公立公的病院も民間病院と同じように変化すると地域医療が崩壊するだろう。そのため今回の国の公表を契機にして、病床数の議論だけではなく、公立公的病院のあるべき姿を地域の皆で考えていかなければいけない。

(事務局) 今回の国の分析は9領域という一側面の診療データだけを分析したものであり、今回分析外の部分も含めて地域での地域医療提供体制について皆様で検討していただきたい。対象病院だけでなく、対象になっていない病院も含めて地域医療提供体制が維持できるよう検討してほしい。

#### 4 その他

#### 5 閉 会